

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 3 月 6 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	関口雄祐
研究課題	眠りとは何か：脳神経と no 神経				
研究キーワード	睡眠, 神経伝達物質		当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった	
関連するSDGs項目	14. 海の豊かさを守ろう	3. すべての人に健康と福祉を	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

【カイメン類の活動記録へ向けて】

- ・数度にわたり, 沿岸普通種のイソカイメン類を捕獲し, その飼育を試行錯誤したが, いずれも 1 週間程度で死滅し, 生理状態の活動記録 (画像記録) は失敗した
- ・海中での生体撮影に切り替え, 防水ファイバースコープなどを用いた方法を模索中である
- ・飼育施設で飼育されているカイメン類を対象とすることも検討中で, 各地の水族館の視察を行っている (Web サイトの飼育動物一覧などにカイメン類が示されている例は少なく, 現地で各水槽を視察しながらチェックしている)

【イルカ類の睡眠行動】

- ・イルカ類の睡眠行動をまとめた論文を投稿中
- ・2023 年度に引き続き, 御蔵島 (東京都) 周辺海域に生息する野生イルカ群のドローン撮影による観察を 2024 年 10 月に計画したが, 悪天候のため調査実施できなかった

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

なし

【著書・論文 (査読なし)】

関口雄祐; 動物たちの奇妙な睡眠習慣, 中央公論, 第 138 巻第 9 号, pp.106-113, 2024

【学会発表等】

Kodai Aota, Yuske Sekiguchi, Hiroshi Katsumata, Seiki Konno, Daiki Inamori, Haruka Hiramatsu, Dale M. Kikuchi; The larger the cetaceans, the more stationary they sleep (P4-86). SICB (Society for Integrative and Comparative Biology Annual Meeting) 2025, Atlanta, USA (2025)

3. 主な経費

沿岸普通種のイソカイメン類の捕獲調査及び, 水族館等への視察に関わる旅費

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

- ・国際海洋生物研究所 (鴨川シーワールド) 客員研究員 (2019 年度～)

- ・ 東京農業大学 客員教授 (2022 年度～)
- ・ 日本動物行動学会編「動物の行動と心の事典 (仮)」編集委員

(本文は 2 ページ以内 にまとめること)